令和7年度　　自　己　評　価

A：　かなりできている。
B：　ほぼできている。
C：　あまりできていない。
D：　ほとんどできていない。

Ⅰ．保育の在り方、幼児への対応

内　　容		評　価
1、健康と安全への配慮		
①	朝の登園時は特に視診を大切にして幼児の体調が悪くないかを確かめている。	B
②	体調が悪そうなときは静かに寝かせたり検温するなど適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している。	A
2、幼児のみとりと理解		
①	幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的な欲求が十分満たされる様配慮している。	B
②	一人の幼児をじっくりと見ながら見えない所で活動したり遊んでいる幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することが出来る。	B
③	個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる。	B
3、指導とかかわり		
〔　心のよりどころとして　〕		
①	幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受け入れ認めるようにしている。	B
②	幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心がけている。	B
③	幼児の話をよく聞くようにしている。	B
④	”一人ひとり”と”みんな”の関係を常に考え、クラス集団をまとめている。	B
〔　遊び・活動の援助者として　〕		
①	幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している。	B
②	幼児を褒めたり、励ましたり、めあてを持たせるような言葉かけをしている。	B
③	禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせる言葉や態度はできるだけ控えている。	B
〔　その他　〕		
①	幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮して関わっている。	B
②	障がい児が入園した時、個別的対応やクラスの子どもとともに育ち合える保育を積極的に進めるように考えている。	C
4、保育者同士の協力・連携		
①	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉掛けや対応をしている。また、情報を共有している。	B
②	指導上配慮を必要とする幼児については、園の保育者全体で特によく話し合い、共通理解をもって、工夫し対応するようにしている。	B
③	他クラスや異年齢の幼児たちと触れ合うよう様々な工夫、保育の形態を取り入れている。	C

5、　意見・改善策等

・子どもと親密な関係を築いていけるよう言葉掛け、スキンシップを図る。
・禁止や「～しなさい」と言いがちだが、子どもが自分で考えて動けるよう、見守る時間や余裕を持って取り組んでいきたい。

令和7年度　　自　己　評　価

A：　かなりできている。
B：　ほぼできている。
C：　あまりできていない。
D：　ほとんどできていない。

Ⅱ．保護者への対応・守秘義務

	内　　容	評　価
1．情報の発信と受診		
①	一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している。	C
②	クラスだよりなどで、保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を、写真やイラストなどを活用して分かりやすく伝える工夫をしている。	B
③	個々の子どもの様子は、直接保護者と話したり、連絡帳などを使って伝え合っている。	B
④	保育参観や保護者面談を定期的に行い、子どもについて、保育や家庭での在り方について共通理解を得るように努めている。	B
⑤	保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している。	B
⑥	子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するよう努めている。	B
2．協力と支援		
①	保護者からの様々な訴え、要望、意見について安易に受けたり、断ったり無視したりしないで、園長や主任等に報告や相談をしている。	A
②	必要な場合は、自園の苦情解決システムについて保護者に説明できる。	C
3．守秘義務の遵守		
①	職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない。	A
②	秘密情報（保護者・園児等に関する個人情報、及び園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報）について園長の許可なく使用、開示、漏洩していない。	A
③	秘密情報の記録が破損、改造されない様に管理している。	A
④	秘密情報について新たに知り得たことについては、直ちに園長・主任に報告している。	A
4．対応上のマナー・良識		
①	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている。	B
②	親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない。	B
③	電話では、簡潔に要領よく対話することを心掛けている。	B
④	保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している。	A
⑤	保護者の国籍、思想、宗教により、又、子どもの性差、障害、個性差によって、区別、差別していない。	A
5．クレームへの対処の仕方		
①	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長、主任に連絡、報告、相談している。	A

5、　意見・改善策等

・丁寧な言葉掛けを身に付け、適切な対応をして行けるように心掛ける。

令和7年度　　自　己　評　価

A：　かなりできている。
B：　ほぼできている。
C：　あまりできていない。
D：　ほとんどできていない。

Ⅲ．保育者としての資質や能力・良識・適性

内　　容		評　価
1．専門家としての能力・良識・義務		
〔　専門家としての能力　〕		
①	保育に携わる者として、専門知識や技能を身に付けている。	B
②	保護者に対し、幼児の事や自分の保育の事を分かりやすく話すことができ、保護者との信頼関係を作ることに努めている。	B
③	保育者並びに他職員が仕事の手順を考え、能率よく行っている。	B
④	保育者の人間性が子ども達に影響を与えることを自覚している。	A
〔　良識とマナー　〕		
①	幼児や保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている。	B
②	朝と帰りの挨拶は明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表している。	A
③	園の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない。	A
④	服装、髪形、身だしなみなど、清潔感のあるものを心掛け、安全性にも気を付けている。	A
〔　義　務　〕		
①	教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している。	B
②	締切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている。	B
2．組織の一員としての在り方		
①	他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べることができる。	B
②	子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告・連絡・相談している。	A
③	当番や役割による仕事を理解し確実に行っている。	B
④	上司の指示、命令には責任を持って実行している。	B
3．まわりを感じ取れる感性・アンテナ		
①	幼児や教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている。	B
②	社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている。	B

5、　意見・改善策等

・専門知識や技能を身に付け、保育者として成長できるよう精進する。